

## 『召しにふさわしく②』

'22/07/24

聖書箇所：エペソ人への手紙 4 章 2 節（新約 p.377）

「救われたのなら救われた者らしく…、つまり、クリスチャンらしく、神にならって歩んでいきなさい！ イエス・キリストを模範として、キリストの歩まれたように、あなたがたも生きていきなさい！」とみことばは教えます。そういったことを私たちは、先週、学んだわけです。

確かに、人は行ないによっては救われません。どんなに素晴らしい人物であろうと…、如何に大きな犠牲を払った行ないであろうと…、また、どれほど多くの人を助け、社会に貢献しようとして、私たちの行ないが人を救うことは決してありません。何故なら、それは神が私たちに与えてくださった救いの方法ではないからです。どれほど、素晴らしい行ないをしようとも、それによって、私たちの犯した罪や過ちが消えるわけでは無いのです…。

私たちが救われるために必要なのは、私たちの犯した罪の清算であり、罪の赦しであります。…それをイエス様はなしてくださりました。だから、私たちは、そのイエス様を信じ、受け入れる必要があるのです。せっかく、イエス様があなたの罪の罰を身代わりに受けてくださって、罪の清算をしてくださっても、あなたがこのイエス様を拒んだままでは、この救いは決してあなたのものになることはありません。あなたが救われるためには、自分自身が犯してきた罪とこれまでの生き方を悔い改めて、このイエス様を唯一の神様として…、また、あなたの救い主として信じ受け入れることが必要なのです。

そして…、そんな救いをいただいた者は、益々、神を愛するようになるし、そのイエス様にならって、その教えを実践していこうとします。だから、聖書のみことばは、こんな風にも教えるわけです、『そういうわけですから、愛する人たち（⇒ピリピ教会のクリスチャンたちを指す）、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。』（ピリピ 2:12）って…。神様がなしてくださる救いの御業は、皆さんを罪とその裁きから救ってくださっただけで終わりではありません！ 今も、神様の御業は続いています！ 神様は今、皆さんを罪から清め…、益々、キリストの似姿に変えようとしてくださっているのです！ だから、先週に学んだみことばにも、『…召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。』（エペソ 4:1b）と教えるのです。

前回でも学んだ通り、「召されるために、召しにふさわしく歩みなさい」と言うものではありません！ 「召されるために…」と言うのは、明らかに聖書が否定している、“行ないによる救い”のことです。「召されるために…」ではなく、「召されたから…」、その召しにふさわしく歩むべきだし、何より、私たちのことを救ってくださった神様が私たちのことを、そのように導き、歩ませてくださるのです。

時々、こんなことをおっしゃる方がおられます。「信仰（＝救い）はいかなる行ないによるものではないでしょ？ だから、あの強盗も救われたのですよね。あの強盗は、何もクリスチャンらしいことをしていないじゃないですか。あの強盗でさえ救われたのだから、クリスチャンになっても何もしなくても良いのではないですか？」って…。⇒皆さんは、どのようにお考えになられますか？ ちょっと、そのみことば…、ルカ 23:39-43 をご覧ください？ 『39 十字架にかけられていた犯罪人のひとりはいエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。 40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。 41 われわれは、自分のしたことへの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」 42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」 43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。』」

⇒確かに、この時、イエス様は片方の強盗に対して、『あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。』とおっしゃっておられます。詳しい説明はしませんが、間違いなく、この強盗は救われました。しかし、どうか、この強盗の言動に注目してみてください。彼は、間違いなく、極悪人でした…。だから、死刑にまてなされたのです。しかし、彼のイエス様に対する言動はどうでしょうか？ 十字架上で憎まれ口を叩く、もう片方の強盗を、40 節には、『たしなめて言った。』とあります。そして、続いて、『40 …「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。 41 われわれは、自分のしたことへの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」 42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。』」

⇒皆さん、分かっていますか？ …こんなことを、十字架にかかっている途中の強盗が言ったのです！ しかも、あの苦しい十字架の上で、です。この強盗の態度はどうでしょうか？ クリスチャンらしくありません？ …確かに、死刑になるような犯罪を犯すというのは、クリスチャンらしくありません…。しかし、この強盗は、死刑の判決が下った後、恐らく、あの十字架上で、自分の罪を悔い改めて、イエス様のことを真の救い主であると信じて救われたのです。そして…、救われたから、彼は十字架の上で最高の辱めや苦しみを受けながら、それでもなお、イエス様をかばうようなことが言えたのです。違うでしょうか？

またイエス様が、ある時、義とされた取税人について話をされたことがありました…。どうぞ、ルカ 18 章をご覧ください。実は、聖書の中でも、イエス様が、「この者は確実に救われた」とおっしゃられた人物は、そう多くはないと思うのですが、ここでイエス様は、こう教えてくださっています。ルカ 18:9-14、『9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。 10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりパリサイ人で、もうひとり取税人であった。 11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。 12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』 13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』 14 あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。』

⇒確かに、この話は実話ではありません。9 節に、『たとえを話された…』とあるように、これは架空の話です。しかし、ここでは、この話をされたイエス様の意図が明確にされています。つまり、イエス様がこの例え話をされた目的です。それが、9 節です。そこには、『自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。』とあるように、イエス様は、「自分が救われている…」と勘違いしているが、実はそうではない…、そんな人物の間違いを正そうと、この例え話をされたのです。簡単に言うと、こういうことです、「本当に救われた者は、簡単には他人を見下さない！」ということ。違うでしょうか？ 幾ら自分が正しいことをしているからと言って…、だからと言って、簡単に人を見下したり、人を蔑んだりしないのです。本当に救われている者とは、神様の前に、自分の罪深さを認識している者であり、ただ、神様の憐れみにすがる他にはどうしようもないと気付いた者のことなのです。そうですよね？

ですから、実は、こういったような聖書箇所は、全く混乱を招くようなみことばではありません。むしろ、「救いとは行ないによるものではない！」ということと、「救われた者は変えられる！」ということを明らかにしてくれる…、非常に分かり易い聖書箇所であると思います。…皆さん、どうか誤解しないでください。今日、私がこういったことを話しているのは、最近、この教会の誰かからこういった質問があったからではなく…、私の経験から、こういった疑問をお持ちの方がおられるかも知れないと考えたからです。…もしも、先程のこういったみことばで、何か混乱を覚えられるのなら、その方こそ、「救いには何らかの行ないが必要なのではないか」というような…、誤解をしておられるのではないのでしょうか？

ついさっき引用した、みことばが教えてくれているように、救いに、一切の行ないは必要ありません。しかし、何度も言いますように、救われたからこそ、その人は神のみこころに沿って生きていけるし、良い行ないができるのです。…だから、私たちクリスチャンは召しにふさわしく歩んでいくべきなのです！

### 命題：神は、クリスチャンがどのように生きることを願っておられるのでしょうか？

では具体的に、神様は、私たちクリスチャンがどのように生きていくことを願っておられるのでしょうか？そのことを、皆さんと一緒に学んでいきたいと思えます。どうぞ聖書をお持ちでしたら、エペソ 4:1-2 をお開きください。そこには、こう記されてあります。

- 1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。
- 2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、

## I・謙遜！（2節）

神様が私たちクリスチャンに願っておられるもの…、その第1番目は謙遜です！謙遜こそ、本当に救われた者が持っているべき態度・資質であります。…今から、そういったことを確認していきましょう。

### ・『謙遜』という言葉の意味！

実は、ここエペソ4:2で、『謙遜』(ταπεινοφροσύνη)と訳されてあるギリシャ語の単語は、「タペイノフォロシユネー」というのですが、実は、この単語は新約聖書より以前には無かった？と考えられている言葉なのです。これとよく似た言葉で、「タペイノス」(ταπεινός)という形容詞がありまして、そのタペイノスの方は古代ギリシャの頃からよく使われていました。…ちょっと、そのタペイノスと一緒によく使われた言葉がどのようなものか分かったら、そのタペイノスという言葉の意味も、皆さんにより詳しく分かっていただけたと思います。実は、このタペイノスという言葉は、下劣な言葉と一緒に使われることが多かったのだそうです。例えば、「奴隷根性の…」とか、「不真面目な…」とか、「劣等(＝劣っている)な…」といった具合です。じゃあ、こういったことで何が分かるのかと言いますと、実は、古代において…、特にギリシャ文化圏においては、「謙遜」などというものは少しも美德ではなく、むしろ、「奴隷根性の卑屈な性格、あるいは、劣等感の表われである」とみなされていたのです。

もう少し聞いてください。キリストの教えではなく…、古代の異教世界では、むしろ、謙遜とは正反対の「尊大(＝横柄、高慢)」の方が美德であり、優れていると考えられていたそうです。…つまり、自分の考えや知識が、如何に正しくて、優れているか、また、如何に奥深いものであるかを訴えかけることの方が、当時の人間たちには重要であったということなのです。言うまでも無く…、その背後にあった動機というものは、「人よりも自分の方が上だ」ということをアピールすることであり、そういったことが当時の民たちの関心であったのです…。

### ・イエス様の教え！

ところが、イエス様の教えや聖書のみことばは全く逆のものでしたでしょ？…皆さんもよくご存知のように、イエス様は、「山上の説教」で1番初めに何と教えてくださいました？⇒マタイ 5:3、『心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。』ということだったじゃないですか！自分の心が如何に貧しいか…、実は、霊的には完全に破産してしまっているという…、その卑しさに気付いた者がこそが幸いだ！とイエス様は教えてくださいました！なぜなら、それこそが本物の神様を知った者の姿であるからです。

また、イエス様がその弟子たちに教えられたことも、当時の考え方からすると、全く正反対のものでした。例えば、マタイ 20:25-28、『25 そこで、イエスは彼ら(つまり、弟子たち)を呼び寄せて、言われた。「あなた

がたも知っているとおり、異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。26 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。27 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。28 人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであると同じです。』⇒まさしく、ここで言われているように、この当時、人々はこそって権力に関心を持ち、権力を振るおうとしたのです！しかも、この当時は、そういったことの方が美德と言うか、称賛される傾向にあったのです。…しかし、イエス様は何と教えられたのでしょうか？⇒『あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい！あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい！』…そうイエス様は教えてくださいました！

### ・イエス様の模範！

何よりイエス様は、御自分の身をもって、そのことの模範を示してくださいました…。皆さんも、よく覚えてくださっているはずですが。最後の晩餐の時、あの不公平な裁判と、あの恐ろしい十字架を前にして、イエス様はどんなことをしてくださいました？⇒何と、イエス様は弟子たちの足を洗ってくださったじゃないですか！その当時、他人の足を洗うという行為は、友人同士とするような行為では決してありませんでした…。生徒が教師に対してというよりも…、奴隷が主人に対してするような、卑しい行為であったのです。何と、イエス様こそは、その弟子たちの教師であられ、何より…、すべてのものに仕えられるべき神であられたのに、そのイエス様御自身が「仕える者」の態度を示してくださいました！そうでしょ？

また、イエス様は、こうもおっしゃられました。マタイ 11:28-29、『28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。』⇒実は、ここ 29 節で、『わたしは心優しく、へりくだっているから…』とおっしゃられた、この、『へりくだっている』という言葉が、先程、お話ししたタペイノスというギリシャ語なのです。イエス様は、当時の習慣に倣って、ご自分のことを偉く言ったりして、自分のことを高めようとはなさらなかったのです。

だから、ピリピ 2 章のみことばだって、こう教えてくださいました。ピリピ 2:3-8、『3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人々を自分よりもすぐれた者と思いなさい。4 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。5 あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられぬとは考えず、7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、8 自分を卑し、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。』

⇒いつも、このみことばを説明する時は、6 節のみことばが、イエス様が「神の御姿である…」という「姿・形」を表わすのに、「モルフェー」というギリシャ語を使っているという話しをさせてもらっています。実は、ギリシャ語の「姿・形」を表わす言葉は、「モルフェー(μορφή)」と言葉と「スケーマ(σχήμα)」という言葉がありまして、モルフェーの方は、どんなことが有っても変わることがない本質などを表わして、スケーマの方は、変わりゆく外見などを表わす場合などに使われるのです。

そうして、いつも私が言いますのは、ここ 6 節で、『神の御姿である』というところには、変わることもない本質を表わす言葉が使われているので、イエス様は、例え、人間となって、この世に生まれてきてくださった時も、変わらず、神であられた！という話しをさせてもらっています。…しかし、今日、皆さんに注目してほしいのは、7 節の『仕える者の姿をとり…』というところなんです。ここにも、「姿」という言葉が使われています。実は、この「姿」という言葉にも、変わらない本質を表わす「モルフェー」というギリシャ語が使われているのです。…ちなみに、ここ 7 節の『人としての性質をもって現れ…』というところには、外見の姿・形を表わす方の「スケーマ」というギリシャ語が使われています。

ちょっと、ここで話が変わるようすけれども、聖書の神様のことを、私たちは父なる神様、子なる神様と言いますでしょ？でも、これまで何度も言ってきましたように、父なる神様と子なる神であられるイエス様とは、私たちが考えるような親子関係ではありません。…でしょ？つまり、父なる神様が、ある時に、イエス様のことを造られたのでは、決してありません！…と言いますのも、イエス様は、ヨハネ 1 章のみことばが教えてくれているように、(永遠の)初めから存在しておられたからです。

じゃあ、一体どうして、私たちは、父なる神、子なる神、あるいは、『御父』に対して『御子』などと…、私たち人間が誤解しやすいような表現を使うのか？…恐らく、その理由は、こうです。ここピリピ 2:7 のみことばが教えてくれているように、イエス様は、ずっと変わらない本質として『仕える者の姿』という姿勢をお持ちでした。そのイエス様と父なる神様との関係性が、まさしく、私たち人間関係で言うところの、父親と子どもとの関係によく似ているからです。イエス様は、ずっと、父なる神様のことを、まるで、私たち人間が父親を尊敬し、その父親に従うように、父なる神様のことを敬い、従順であられたのです。…イエス・キリストという御方は、そのように、「仕える」ということを重んじられて…、それを父なる神様に対しても、いえ、私たち人間に対しても仕えてくださるような…、へりくだった、謙遜な御方だったのです！

### ・生まれながらの、私たちの性質 = 罪 !

そもそも、生まれながらの私たち人間には、「謙遜」などというような性質はあまりありません。いえ、全く無いと言った方が良いかも知れません…。だって、そうじゃありません？どうか、皆さん、生まれながらの子どもたちを見てみてください。先程の教えにあったように、『3 …へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。4 自分のごとくだけでなく、他の人のことも顧みなさい。』(ピリピ 2:3-4)というような…、自分のことよりも、相手のことを気遣ったり…、相手のことを優先したり…、ましてや、相手のために自分が率先して犠牲を払おうなどは、ほとんどしないじゃないですか！

大きくなって…、成人しても、根本的には同じかも知れません。確かに、見せ掛けは変わったかも知れません。さも、謙遜であるかのように振舞うことはできるかも知れません…。特に、私たち日本人は、そういった表面的な謙遜は得意であると思います。しかし、本当のところはどうでしょう？…小さい頃から、私たちは人に負けたり、損をしたりするのが嫌じゃありません？人から馬鹿にされたり、見下されたりするとムカつきませんか？人が自分の思い通りに行動してくれないと、腹が立ちませんか？…それは私だけでしょうか？(笑)…皆さんの中には、イエス様の教えとは全く正反対の性質が無いでしょうか？それこそ、聖書の教える“罪”であります。…私たち人間は生まれながらに、醜い罪をもって生まれてきたのです。

創世記 3 章をご覧くださいますと、悪魔である蛇は、何と言ってエバを誘惑したでしょう？⇒蛇は、最初、エバにこう言うわけです、『1 …あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。』って…。すると、エバはこう返答します、『2 …私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだと仰せになりました。』って…。エバの返答には、若干の間違ひがあるわけですが、それに対して、蛇はこう言いましたでしょ、『4 …あなたがたは決して死にません。5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。』って…。そして、6 節、『そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。』となって、人間に罪が入っていったのです。

⇒このように、悪魔は非常に狡猾です。人間の弱点を、見事に突いてきます。私たち人間は、自分が神のようになりたいのです。神様のように…、自分が1番で…、自分の思い通りに事が運ぶような…、そのような存在になりたいのです。…皆さんだって、そんな思いがありますでしょ？

実は、そういったような思いは、私たち人間だけに留まりません…。実は、あの悪魔も同じような思いを持って…、神様の前に罪を犯し、そうして墮落したのです…。どうぞ、イザヤ 14:12-15 をご覧ください。『12 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。13 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。14 密雲の頂に上り、いと高さ方のようになろう。』15 しかし、あなたはよみに落とされ、穴の底に落とされる。』

⇒ここで言われているのは、サタンとも言われる悪魔の墮落についてです。サタンも、私たち人間と同様、自分の“分”というものをわきまえず、もっと上の地位に就くことを願ったことが分かります。…この個所を観察して下さると分かっていただけだと思いますが、サタンの願ったことは自分の成長ではありませんでした。自分の本質が成長し、高められることを願ったのではなく…、ただ単に、自分の地位や特権というものが神様と等しくなるようなことを願っているのです。だから、それが神の前に罪となり、サタンは墮落してしまっただのです…。

### 問: 本当の謙遜を身に付けるためには？

#### ①まず、本当の 自分自身 を知る！

じゃあ、その次に、私たちが考えていきたいのは、本当の謙遜を身に付けるためにどうすれば良いのか？⇒まずは、本当の自分自身を知ることです。ガラテヤ 6:3-4 のみことばは、こう教えてくれています。『3 だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでもあるかのように思うなら、自分を欺いているのです。4 おおの自分の行いをよく調べてみなさい。そうすれば、誇れると思っただけ、ただ自分だけの誇りで、ほかの人に対して誇れることではないでしょう。』⇒「本当の自分を知りなさい」ということです。心の貧しい自分…、本当は、自分では何もできない、霊的には全く破産してしまっている自分を覚えなさい、ということです。

皆さんは、少し前に学んだ、エペソ 2 章前半のメッセージを覚えてくださっていますか？神様は、どうして、私や皆さんのことを救ってくださったのでしょうか？…私や皆さんの内に何か救われるべき理由があったからでは無かったでしょ？神様の憐れみ…、恵み、そして、愛…。すべて、神様の側の理由だったでしょ？だから、エペソ 2:8-9 のみことばはこう教えるのです、『8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。』って…。私たちが救われたのは、私たちの側に、何らかの救われるべき理由があったからではありません。また、如何なる行ないによるのでもありません。ただ…、神様からの一方的な恵みによるのです。先程学んだように、この当時の社会にあって、謙遜は美德ではありませんでした。皆、こぞって、自分の価値をアピールしたのです。しかし、神はそうはおっしゃいません。「もしも、あなたが正しく自分自身を評価できたら…、もしも、あなたが神の目で、自分自身を見ることができたら…、自分には何も誇れないということに気付くはずである」と、神は言われるのです。

そして、次の 10 節に、何とあります？⇒『私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』⇒ここでもはっきりと教えられているのは、私たちクリスチャンは、『良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られた…』ということです。救われた皆さんには、今、生かされている目的があるのです。それが、神にあって、『良い行いをする』ということです。…ですから、私たちは、救われた後の生き方においても、決して、無関心であってはならないのです。

#### ②次に、キリストをより深く知っていくこと、キリストを 模範 としていくこと！

その次に私たちがなすべきことは、キリストを益々、深く知っていくことです。そして、あなたがキリス

トを模範として生きていかれることです。今日の学びで、もう既に引用しましたが、**マタイ 11:29 のみことば**、『わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。…』という、イエス様の教えです。ここで、イエス様は、『あなたがたもわたしのくびきを負いなさい！』と、命令形でおっしゃっておられます。イエス様は、ここで何を教えたかったのでしょうか？⇒『くびき』とは一体何でしょうか？くびきとは、牛や馬などの家畜を操る際、首に付ける道具のことです。それでもって…、人間は家畜に意志を伝え、操ったのです。ここで、イエス様は、「あなたがたも、わたしのくびきを負いなさい！」と言われています。もし、あなたが、「イエス様に従いたい…」と思われぬのなら、あなたを導こうとする、イエス様のくびきは、あなたにとっては決して喜ばしいものではなく、邪魔なもの…、煩わしいものとなるでしょう。しかし、もし、あなたが、「イエス様に従っていきたい…」と思われるのなら、あなたを導いてくださるイエス様のくびきは、あなたにとって喜ばしいものであるはずで、だから、先週も見たように、みことばは、『神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。』（イヨハネ 5:3）と教えるのです。

いかがでしょうか？皆さんは、神様に従って、生きていきたいと願っておられます？神様の命令や勧めは、あなたにとって喜ばしいものでしょうか？それとも、煩わしいものでしょうか？皆さんにとって…、みことばにある数多くの命令や勧めは、あなたが救われるために、受けなければならない交換条件のようなものでしょうか？…もしそうなら、それは聖書が教える、本当に救われた者の態度や考え方ではありません…。

イエス様を信じ、本当に救われた者にとっては、イエス様のくびき…、つまり、神の命令や勧めといったものは、神様のみこころを知ることができて…、ますます、神様に喜ばれる者となっていくための指針であるがゆえ、むしろ喜ばしいものであるはずなのです。もし、あなたが、自分の罪や自分自身の頑なな思いをすべてイエス様にお委ねして、神様のみことばに沿って歩いていくことを願われるなら…、先程の、**マタイ 11:29 に何とありました？**⇒『わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに 安らぎ が来ます。』…このように、神様の与えてくださる平安があなたに訪れるのです。

どうぞ、最後に、**1 ペテロ 2:20-23 をご覧ください**。『**20 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。**』⇒このみことばは、「イエス様が、私たちのために模範を残してください」ということが教えられてあります。でも、このみことばが教えてくれている「イエス様の模範」って、どのようなものでしょう？…それは、あのイエス様がそうであったように、善を行なっていて…、それでいて、降りかかってくる困難や迫害のことです。イエス様は、そういった困難や迫害が襲いかかってきても、決して報復なさいませんでした。どうしてでしょう？…それは、イエス様が謙遜であられたからです。

### <励ましの言葉>

私たちが謙遜でなくなるのは、自分で勝手に判断してしまうからです、「私は、こんな扱いを受けるべきではない！」って…。「あの人は、私にこうすべきだ！」などと、私たちはつい考えてしまいがちです。しかし、それは、ある意味において、自分をまるで、神と等しくしてしまっているのです。その証拠に、私たちは時として、神様に対しても意見してしまうことがありますでしょ？「神様、どうして、こんなことをなさるのですか！」なんて…。

当然、このような考え方や態度は、神が望まれるような謙遜ではありません。そうではなくて…、願わくは、神の与えてくださる環境を受け止められるような…、そんな柔軟で、強いクリスチャンになっていきたいものです…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。